



### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,039	調査研究に関わる現地調査、研究会等への移動経費
需用費	7,240	調査研究のための消耗品費、燃料費、光熱水費等
役務費	486	通信運搬費等
委託料	1,417	共同研究機関に研究を委託する費用
備品購入費	360	調査研究のための備品購入費
その他	772	調査研究にかかる使用料、原材料、負担金
合計	11,314	

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定める方針。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられる予定。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
岐阜県の農業振興のために策定される「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～R7）に基づき、県民、産業界ニーズに応える研究開発を進める。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
				(前々年度末時点)		
技術移転の推進 ※関連企業への技術 移転	—	17 (H29)	14 (H30)	16 (R1)	12件 (R3)	133%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
研究要望課題の中から重点研究方向に沿ったテーマを選定し、継続課題と併せて12課題に取り組んでいる。  
技術確立したものについては、普及機関と連携しながら研究成果の普及、技術支援に努めた。

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
米の食味向上に向けた栽培技術の開発、イチゴの微小害虫防除体系の確立、優良胚を効率的に生産する技術の確立、溪流魚資源持続的利用技術開発に関する研究等を実施し、県農畜水産物の高品質化や生産量増加に貢献している。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	生産者の高齢化・担い手の減少、国際化に伴う安価な輸入農産物の増加等、県内農業が直面する厳しい課題に対して、新技術の研究開発の面から技術支援することで県内の農畜水産業の基盤強化に貢献しており、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	研究成果については、研究課題ごとの終了年度が異なるため、各年の技術移転件数に違いはあるものの、コンスタントに研究成果を農畜水産業者へ技術移転しており、生産性の向上、高品質化等の事業効果が現れている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	各研究課題の提案書、予算書、進捗状況を評価・管理し、課題に応じた適切な予算額に査定することで、経費の削減に努めている。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究成果の普及の面では、研究成果発表会、マスコミへの情報提供、イベントでのPR等により積極的に広報を進めているが、今後も、県民、地元産業界等に対して研究成果の県産業への貢献等を、より一層分かり易くPRしていく必要がある。
--

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 農畜水産業者が抱える直近のニーズ及び研究所が収集した長期的視点に立った独創的・革新的な研究シーズのうち、政策的・戦略的に重点化した研究課題に達成年度・成果を明確にして取り組むことで、農畜水産業の持続的な発展に引き続き貢献していく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	